

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0278
施設名	光明第五保育園
施設所在地	八王子市山田町 1 6 8 8 - 2
法人名	社会福祉法人多摩養育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

《水の観察》

<テーマの設定理由>

東京都が主催する「とうきょうすくわくプログラム」の『乳幼児期の豊かな育ちをサポートするため、主体的・共同的な探求活動を通じて幼児教育・保育の充実を図る』という目的に賛同し、本園でも取り組むにあたり、昨年度は、色水遊びを通して、色を混ぜるとどんな色になるのだろうと、好奇心を持って色水遊びに取り組みました。今年度は4月～5月年長を対象に、散歩先で春の自然に触れながら、自分で再現してみたい色の草や花を採取して、保育室でその色を再現してみよう。と言う事になりました。

2. 活動スケジュール

年長児4人1組で実施。散歩先で春の色を探してみようと提案。どんな色があるかを探しながら、自分が絵の具で再現したい草花を採取。帰園して、草花を見ながら、どんな色を混ぜたら再現できるかを、4人で話し合う。スポイトで、赤、青、黄色(色の三原色)、白色(淡い色づくり)を透明の容器に入れ、色あいを調整しながら作っていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・透明なカップ、スポイト、絵の具、白画用紙、ジッパー付きビニール袋
- ・じっくりと考えながら色の変化が楽しめるように、落ち着いた環境と時間を準備した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

春の色

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>



春の色どんな色、どの色を作りたいかな。公園で散策。



どんな色をどれくらい入れたらいいかな。話しあいました。



ピンクは白と赤と混ぜてみる。と自分の考えを友だちに伝えていました。



葉っぱを選んだY君。混ぜた色を画用紙に塗って、葉っぱと色をながら「んー」という声が上がっていました。思ったような色が作れない様子。目の前に座っていたS君がその様子に気が付き、「黄色を入れてみたら」とアドバイス。Y君は、黄色をスポイトで1回入れました。「変わらないな」とY君。「後、3回くらい入れてみたら」と職員がアドバイス。すると入れるたびに色が変わっていく様子を見て、「変わってきた」と驚きの声。



ピンクのつつじに花を選んだ二人。ただ単に赤と白を混ぜただけでは、同じ色にならないことに気が付き始めました。赤をスポイトで少しずつ赤色を足し、混ぜて、色を見比べてを繰り返していました。隣で紫のパンジーの色づくりをしていたS君を見てヒントを得たのかもしれません。少し青色を入れてみようとして青色をスポイトにちょっと入れて、その後にもた赤色を足し入れていました。つつじの花と見比べて、同じ色になったと言っていました。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>



始める前に、子ども達同士でどの色を混ぜたらいいのか、予想をする時間を設けたことで、探求心が増したように感じた。何色を混ぜたらいいのかという考えから、試行錯誤をして、色の量を考えながら入れたり、友だちの様子を見てヒントを得たりと、お互いに刺激を受けながら行っていた。でき上がった時の喜びが増したようだ。